

ねりいた

練板ベー通信

2007年11月14日 vol.66
練馬板橋ベーゴマの会
作：夕陽のヤスジ



ヒラケン初優勝は第六期名人!

一年間戦い抜いたその先に栄光が待っている。11月11日(日)雨の板橋平和公園は秋色に輝いていた。トップヒラケンと2位六角デビルの差はわずかに3点、独走態勢に入っていたヒラケンの尻に火がついていた。残り人数も等しく、この日の成績次第では逆転も十分ありうる展開だ。そのヒラケンの点数が伸びない。超人後藤とタイキローから合わせて3点しか奪えず、怪鳥タケダとの最終戦を残して得点は116点、わずかに1点差でデビルに抜かれてしまった。ここで怪鳥が絶妙のアシストを見せる。パッカン引き分けで同点、2戦目は引き分けでもヒラケンの優勝が決まるが、これを逆に返り討ち、デビルとの同点決勝に持ち込む。これ以上ない展開だ。役者やの〜、怪鳥。逆に追われる立場になったデビル、ヒールには分が悪い。追う者の強み、開き直ったヒラケンが見事にデビルを破り、念願の初優勝を手にした。ヨッ、名人!おめでとうございます。

女流はユコリン、子どもはマイチャン 殊勲賞は六角デビル

9月までデッドヒートを繰り広げたユコリンとマイチャン姉妹だが、ユコリンが10月に一気にリードを広げ、そのままゴールイン、女流名人を射止めた。それでもマイチャンは、今年の女流に引き続き子ども名人に輝く。後は伊佐Pだけだね。また、優勝を逃したデビルは、ヒラケンから6点奪い殊勲賞に輝いた。

殊勲賞六角デビル、女流名人ユコリン、子ども名人マイチャン、第六期名人ヒラケン おめでとう!



優勝したかのような喜びようは、誰だ!?



3年ぶりハルク逆転でNIB王

ハルクがトシ田口との決勝戦を制し、グラチャンとなったのは2005年正月、あれから2年10ヶ月の歳月が流れた。その間、成増支部は見事に花開いたが、肝心の本人の成績はサッパリだった。改名が原因との意見もあるが、それは定かではない。しかしこの男の中には熱い思いが常に充満していたのだ。第11期NIB王戦の決勝には伊佐P、ユコリン、松ちゃん、入間田岡、トシ田口、ハルクの6人が残っていた。予選から飛ばす6人、順当な組み合わせだ。まずトシが3点挙げるが、松ちゃん、ハルク、田岡と続き、勝利の行方はわからない。残り2回戦となったところで、トシが一步リードする。このまま試合巧者のトシが逃げ切るかと思われた最終10回戦、リキ勝負となりこれをハルクが粘り勝ち、1点差の逆転勝利を収める。長かった3年、悔し涙に暮れる日もあった。しかし努力はいつか報われる日が来るものだ。おめでとう、ハルク。



マサキ、ハルク おめでとう！



子どもNIB王はマサキが獲得

子どもで準決勝に進んだのはマサキ、タイキロー、カンタの三人。惜しくも決勝進出はならなかったが、タイキローとマサキによる同点決勝の結果、マサキが勝ち初タイトルを獲得した。一勝リードされた後の二連勝は子ども王にふさわしい強さだ。後は作務衣だけだね。

